

令和6年12月25日

太田市議会議長 高田 靖 様

創政クラブ 代表 大川陽一

会派視察報告書

- 1 期 日 令和6年10月 9日（水）から
10月10日（木）までの2日間
- 2 視 察 地 全国市議会議長会フォーラム （岩手県盛岡市）
- 3 視察事項 (1) 「地方議会の課題と主権者教育」
(2) 「主権者教育の取組報告」

※予定されていた、菅義偉による基調講演は中止となり
ビデオメッセージに変更されました。
- 4 参加議員 6名
大川 陽一 久保田 俊 矢部 伸幸
高木 きよし 高野 博善 川岸 靖隆
- 5 視察概要 別添のとおり

盛岡市の概要（令和6年10月1日現在）

- ・面積 886.47 k m² ・人口 280,406 人 ・世帯数 132,831 世帯
- ・市制施行 明治22年4月1日
- ・一般会計予算額（当初） 令和6年度：1,213 億円
令和5年度：1,218 億円
- ・議員定数 38 人
- ・政務活動費（議員一人当たりの月額） 50,000 円

視察事項

(1) 「地方議会の課題と主権者教育」

パネルディスカッション

コーディネーター 井柳 美紀（静岡大学人文社会科学部法学科教授）

パネリスト 土山希美枝（法政大学法学部教授）

越智 大貴（一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事）

渡辺 嘉久（読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局）

遠藤 政幸（盛岡市議会議長）

(2) 「主権者教育の取組報告」

コーディネーター 河村 和徳（東北大学大学院情報科学研究科准教授）

事例報告者 白鳥 敏明（伊那市議会前議長）

諸岡 覚（四日市市議会議員 第83代議長）

服部 香代（山鹿市議会議長）

・所感

(1)「地方議会の課題と主権者教育」

パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」では、投票率の低下、無投票当選の増加、性別や年齢構成の偏りなどのアプローチとして主権者教育の在り方がテーマとなり、コーディネーターの井柳氏から「主権者教育の新たな展開」として、地方自治法改正も踏まえ、課題を抱える地方議会は、議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を推進することが必要であり、出前講座や模擬議会など、自らが主体的に主権者教育に取り組む事例が広がっているとのことでした。一方で、パネリストの土山教授からは、従来の主権者教育に対して教育の側面から、議会はいくまで「場」であって教育の主体になることは難しいのではないかと問題提起がありました。もっとも、教育機関が主権者教育をカリキュラムに組み込めるかというのではなく、井柳氏が整理したように、教育と政治の関係は慎重であるべきという時代が長かった歴史的な経緯もあり、文科省の通知では、「現実の具体的な政治的事象も取り扱い、生徒が国民投票の投票権や選挙権を有する者として自らの判断で権利を行使することができるよう、具体的かつ実践的な指導を行うことが重要」とされた。それでも、教育現場においては、党派的な中立性の担保や外部からの反応への対処などの負担感から選挙制度等の知識学習にとどまる例が多いようである。また、盛岡市議会議長の遠藤氏からは盛岡市議会の取組紹介があり、同議会では、高校生議회를平成29年7月に第1回を開催して以降、令和4年度までに、4回開催したほか、盛岡地域の大学に市議会が「おでかけ」して学生と意見交換を行う「もりおか mirai おでかけミーティング」を3つの大学で開催した。また、高校生議会では参加者から「市政に関心を持った」、「議会の役割が理解できた」などの感想があるとのこと、市議会の役割を理解し、市の施策を身近に感じてもらう貴重な機会となっているとのこと。本市でも、議会の役割や市の施策を身近に感じてもらえるように参考にできればと感じました。

(2)「主権者教育の取組報告」所感

コーディネーターの河村教授からは、地方議会と主権者教育の理想と現実、選挙年齢の18歳引き下げの論点、現在の主権者教育で感じる限界などについて整理があった後、伊那市、四日市市、山鹿市の各市の取組事例について紹介があり、伊那市の白鳥前議長からは、「高校生の議会傍聴と意見交換会の取組」として、平成30年の伊那市議会議員選挙が無投票になったことで議員のなり手不足に危機感をもち、議会改革の一環として、高校生の議会傍聴や意見交換会が始まり、参加した高校生からは「話しているうちに自分の意見を言うことができ、伊那市のことをよく知ることができた」「親身に話を聞いてもらえてアドバイスももら

えた」「将来、政治家になりたいと思った」などの感想があり、意見交換をきっかけに高校生から請願書や要望が出されるなど市政への参加意識が高まった。四日市市の諸岡元議長からは、四日市市議会が取り組む出前講座型の「ワイ！ワイ！GIKAI」についてで、四日市市議会では、議長選挙の際に公約を掲げる慣例があり、この「ワイ！ワイ！GIKAI」も議長の公約から始まった。各常任委員会が、地域の高校・大学に出向いてテーマをもとに意見交換を開催している。今後の展望は、将来的に各種業界団体や各種労働組合など、制限を設けずに幅広い対象との交流を目指している。山鹿市の服部議長からは「山鹿議会が取り組んだシチズンシップ教室」のことで、山鹿市では「開かれた議会になっていない」「住民の理解と関心が得られていない」「議員のなり手不足」などの課題を感じていて、議員のスキルアップが必要になっている。議会として小学校でシチズンシップ教室を開催して、「絵本で選挙を体験しようポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」という絵本を教材として使用している。読み聞かせボランティアを市民参加で得ているとのことで、議会と議員の仕事や、政治への主体的な関わり方を子どもでも分かりやすく学べるよう工夫している。子どもたちからは「選んだ人によって未来が変わることを知り、投票の大切をしれた」「真剣に考えて選挙で選んで行こうと思った」「議員の仕事をしてみたいと思った」など、議会への理解が進んだとの反応があった。学校関係者との調整や、議員の準備活動を通しての気づきなど、大きな波及効果もあった。子どもたちに、政治への興味関心をもってもらえるように、このような取り組みを参考にできればと感じました。

